

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000144	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	有限会社 ヴァントーズ		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 あかね		
所在地	(254-0014) 神奈川県平塚市四之宮 2 丁目 2 2 - 1 1		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
		宿泊定員	8 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年10月3日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1492000144&SVCD=730&THNO=14203
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者お一人お一人の想いを大切にし個人を尊重したケアに取り組んでいます。「年齢」という枠にとらわれず、ご利用者もスタッフも、楽しく、イキイキと過ごせる場でありたいと思います。また、レクリエーション、行事においては楽しいだけでなく心身が活性され、身体機能の維持・向上を目的としており、毎月スタッフが知恵を絞っております。いつも笑い声が絶えない「あかね」に是非お立ち寄りください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成26年12月12日	評価機関 評価決定日	平成27年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、平塚駅北口からバスで約10分、「稲荷前」バス停から3分のところの住宅街の一角にあります。リビングホールの前にはデッキがあり、敷地内の畑に野菜や小さな花が植えられ、憩いの場となっています。

<優れている点>

体操メニューにはリンパ体操の他に、ひねりやももあげ、スクワットなどを取り入れ、30分程の時間をかけて体を動かしています。家族から、車いすが不要になった、とか、外出の時の歩くスピードが速くなった、との声が聞かれるようになっていきます。管理者は、業務優先ではなく、利用者の気持ちを大切にすることを重視したケアを推進してしています。地元の自治会メンバーに向けて、車いすの講習を広めるなど、社会資源を生かした取り組みを展開しています。高齢者の尊厳に応える取り組みとして、日中のBGMとしての音楽には幼稚さが前面に出るものは避けて、大人が好む音楽性の高いものを選曲するよう努めています。

<工夫点>

事業所内の、20メートルの廊下を「東海道」に見立てて歩き、宿場シールを貼って達成感を味わってもらうなど、職員から出たアイデアを実施しています。地元で開催される作品展には進んで参加するようにしています。折り紙や縫い物など、手先の技を活かした作品づくりをし、達成感を得てもらえるような支援をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 あかね
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	小規模多機能型居宅介護の理念、あかねの理念を念頭に入れ、ご利用者お一人お一人が自分らしく、住み慣れた地域、ご自宅で住めるようサービスの提供を行っている。	業務主体ではなく、小規模多機能ホームだからこそできる利用者主体のサービスを念頭に、月に一度の全体会議の中で、具体的な各業務の進め方や利用者対応について、理念を活かした実践をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のボランティアを招いてレクリエーションを行ったり、地域のこども会と共同で七夕飾りを作成したり、自治会の防災訓練に管理者が参加し、車いす講習を行っている。	毎月の行事の一つとして「喫茶あかね」を開催し、地域の方を招いて茶話会を実施しています。利用者と地域の人と気軽に触れ合える場として好評を得ています。この他、地元の子供会の人達と一緒に七夕飾りを作るなど交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が認知症ケア専門士の資格を持ち、事業所内のご家族はもちろん外部の方の相談、施設見学を随時受け入れている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、事業所の報告、地域の取り組み、民生委員、自治会の活動を話し合い、皆さんの意見を参考にサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に一度、自治会長や家族、市の担当者や地域包括支援センターの参加を得て実施しています。自治会からは車いすの講習の案が出され実施しています。地域包括支援センターを知ってもらうためポスター掲示等も行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域システム会議の小規模連絡会に参加し市の職員も出席してもらい、いろいろな課題を話し合い、地域密着ケアの向上に努めている。	市の介護保険課や社会福祉協議会、小規模多機能居宅介護事業所が参加して開催する連絡会では、「みんなで一緒に成長していこう」という意識で、参加者の高いモチベーションのもと、互いの理解と連携の上に立ち、情報共有を図っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、委員会を中心に身体拘束をしないケアを実践している。また、新しい職員には拘束とはどういうものを指導し、職員が一体となり、取り組んでいる。	身体拘束廃止宣言をしています。委員会を年に数回開催し、具体的な場面を想定した話し合いをしています。身体拘束に関するマニュアルが整備され、部内研修を年に1回実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、委員会を中心に全体会議で研修の機会を持ち勉強している。また、虐待防止のマニュアルを作成し、職員に周知徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご利用者のご家庭の状況により成年後見制度をおススメしている。また、管理者、職員は積極的に研修に参加し、知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、事業所の説明を十分に行い契約書、重要事項説明書等必要書類についても読み合わせをし、理解を頂いた上でサービスを開始している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎日の通いでは、連絡帳を設け、常に施設とご家庭の連絡が取れるように行き来し、ご意見ご要望については早急に対応している。	日中のデイサービス利用者からは、夕食まで提供して欲しいという希望者には対応しています。また、日中の暮らしに慣れて泊りもお願いしたいとの希望にも可能な範囲で答えており、利用者最優先を前提にした業務遂行を心掛けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員間ではコミュニケーションをとり、常に施設の向上を意識して意見を出し合い、また、月に1回全体会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の個人面談を実施しています。事前に面談シートに記入してもらい、話を聴ける時間を確保しています。全体会議の出席率も高く、欠席者には議事録を回覧して共有を図っています。業務時間帯の改善や処遇の統一などが成果として得られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業時間を守る習慣付けをしており、時間内は集中して仕事に取り組み、その中で各自スキルアップを目指し向上心をもって仕事に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所では月に1度、勉強会を設けスキルアップを目指している。また、外部からの研修も回覧し。研修を受ける機会を確保し常にスキルアップを目指す環境創りを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	平塚市内の小規模多機能事業所が集まる連絡会を開催し意見交換を行っている。また、姉妹施設でも月に1度会議を開き情報交換を行っている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人のありのままを受け入れ安心して関わりを持って頂けるよう穏やかな雰囲気を作り傾聴するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の介護に関する不安な気持ちを理解し、わからないことや、介護に必要な知識等を会話の中から拾い出し、信頼関係を深めながら施設と家族が一体になりご本人の在宅生活を支えていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族と話し合いの中から何を求めているかを見極め、その意向を大切にしながら相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は常に人生の先輩であるという尊敬の念を忘れず、お手伝いをさせていただきながら自分も教わっているお互い様の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員はご利用者のご家族のきずなを大切にしながら信頼関係を構築していくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご本人の馴染みの関係や人、場所を今までと変わることなく在宅生活を過ごして頂けるよう支援します。	地域の方が頻繁に見えて顔見知りになったり、知人の訪問もあります。季節の頃合いを見て市内の花どころや、大磯の海岸線にドライブに出かけることもあります。この事業所を生活の拠点とし、自分のライフスタイルを継続している人もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	座席を頻繁に変え、特定の人だけに偏らず皆さんとコミュニケーションがとれる工夫している。また、スタッフが入り、会話が円滑になる様コミュニケーションのサポートをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了しても地域密着の施設であることを忘れず、地域の方々が困りの際には、積極的に相談に乗り、安心して住める地域作りに協力していく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフとコミュニケーションを大切にし、何でも話し合える信頼関係を構築し、小さいことでも情報を共有し、お一人おひとりの思いを把握するよう努めている。	毎月のカンファレンスでは、本人の思いを大事にした対応を念頭に取り組んでいます。利用者との会話や注意深い観察で、多くの気づきをカンファレンスに反映し介護計画に取り入れています。また、気軽に会話が進むよう言葉遣いに気をつけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	契約時の家庭訪問、アセスメント等からご本人の全体像、これまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の日常の中から小さな変化を見逃さず、ご本人のできる力を見出し、最大限引き出せるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月月末にスタッフ全員でお一人おひとりのカンファレンスを開き、それぞれの意見を参考にしてケアに活かしている。	各職員がもつ視点を大事にして、長所を生かした職場でありたいという思いが管理者にあり、カンファレンスでの意見が活発に交わされています。職員は日々のケアの中で、介護計画に照らし合わせた利用者処遇を実践しています。	短期計画に示すサービス計画について、日々のサービス実施場面における各項目を、ブレークダウンする事で、より具体的なサービスの可視化とモニタリングの向上が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にケア記録、支援記録を取り、職員間で情報を共有し、課題を皆で話し合い介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況により、個別に必要なサービスをプランに取り入れ実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアを招いてレクリエーションを行ったり、地域のこども会と共同で七夕飾りを作成したり、自治会の防災訓練に管理者が参加し、車いす講習を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個人のかかりつけ医や、施設の提携歯科など、病状の早期発見に努め、早めに適切に受診に繋げている。	職員は常に利用者の体調に気を付け、変化があれば管理者に報告しています。その後家族に連絡して受診するなどの適切な対応をしています。利用者のかかりつけ医や事業所の協力歯科医の受診には、原則として家族の送迎で行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設看護職員は介護職員と業務を共にし、常に介護と看護が一体となり、利用者の安全に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ソーシャルワーカーと連絡を密にとり、退院後もご本人が入院前と変わらない生活が出来るようご家族、ソーシャルワーカー、ケアマネで情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期におけるご本人の想い、ご家族の想いを話し合い、残された時間を有意義に過ごして頂けるよう、全職員が一体となりチームケアに取り組んでいる。	まだターミナルケアは行っていません。重度化した利用者に対して、本人や家族の思いを尊重し、職員やかかりつけ医も一緒に相談し、事業所と自宅での生活を通じて余命を有意義に暮らせるように、個別に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時には原因追究し個々のスキルアップに繋げている。急変時にはマニュアルをもとに落ち着いて対応し、定期的に勉強会を開いて訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、防災訓練を行い、利用者の安全に留意している。また、消火訓練では消火器の使い方を教え実際に使用して頂いている。	年2回防災訓練を実施しています。避難場所も職員は熟知しています。また、火災を想定した通報や消火器の操作訓練も実施し、万が一に備えています。事業所には、災害時に対応するために食料や水などを備蓄しています。	現在、地域の防災訓練に参加していますが、万が一に備えるために、地域との相互援助協定を締結しておくことも期待されます。また、今後、夜間を想定した避難訓練も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員の接遇は常に気を付け、お一人おひとりの人格を尊重した対応に心掛けている。言葉が乱れたら、即注意し、気を引き締めて任務を遂行するよう努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、定期的な職員研修などでは、利用者目線での接遇の心掛けを徹底しています。利用者の呼び方も、苗字にさんづけで呼ぶことに統一しています。また、トイレへの誘導も他の利用者に気付かれないよう注意して対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定の尊重・できること・興味のあることをご自分でやって頂き、できないことお手伝いする。また、できないことも働きかけにより、できるように促していく。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常にお一人おひとりのご希望に沿った生活が出来るようご家族と連絡を密にとり、注意深く見守っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で洋服を選んで頂いたり、手鏡を用意し、1日1回は（泊り利用者）鏡を見て頂き、見出しなみに興味を持って頂いている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎月、喫茶あかねとキッチンあかねを開催し、キッチンあかねでは利用者とともに調理をし、できたら、全員で頂き、毎日昼食時の食器拭きもできる方に手伝って頂いている。	昼食と夕食の副食は宅配を利用し、メニューは事前に告知しています。毎月開催の、「喫茶あかね」や「キッチンあかね」以外にも、仕出し弁当や出前などで楽しんでいます。昼食後の食器拭きやキッチンあかねの調理も利用者が手伝っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や、水分量等、毎日記録をし、お一人おひとりの体調の変化に敏感になるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。忘れていた方は声掛けし、洗面所へ誘導する。また、自立支援の観点からなるべくご自分でやって頂くよう促している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意のない方も時間により誘導することでトイレで排泄ができる。	利用者の尊厳を守り、できるだけトイレでの排泄を心がけています。排泄チェック表を活用し、排泄の訴えのない利用者にも、個人の尊厳を守るような声かけをして、トイレでの排泄支援を行っています。また、排便状況は家族に連絡しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日常生活で便秘の原因と思われることを注意深く観察し、体調管理を行っている。夜間も水分を用意し、目が覚めたら1口でも飲んで頂くよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	菖蒲湯、ゆず湯など、季節に応じて演出をしたり、浴室には富士山の絵を飾り、温泉気分を楽しんで頂く。	浴槽は、リフト付きの檜風呂と手摺が付いた一般浴槽の2つがあります。入浴は主に午前中に行われています。季節により、菖蒲湯やゆず湯にしたり、壁に富士山の絵を掲げたり、浴室の入り口に暖簾をかけて楽しい入浴を演出しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ゆったりのにんびり、夕食後は1日の疲れを癒してもらい、テレビをご覧になられたり、トランプを楽しまれたり、個々のペースで時間を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は個別でケースを作り管理をしている。新しく追加された薬には十分注意し、体調に異常がないか観察し、異常が出たら速やかにご家族に連絡し、受診に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常の行動、会話からお一人おひとりの好きなことや興味のあることを把握し、提供している。また、食器のふき取りやリビングの清掃等、できる方にお願ひし、職員とともにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お一人おひとりのご希望に沿うよう、スタッフが時間をつくり外出できるよう努めている。また、天気の良い日はドライブへ行ったり、花見に行ったり、外出の機会を設けている。	利用者に季節感を味わって貰えるように、紫陽花見学や平塚市内の公園、大磯の海岸線などへ職員の付き添いでドライブに行っています。また、利用者が、近くの福祉施設の作品展に出品した作品の鑑賞に出かけるなど、喜ばれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の可能な方はご自身で所持され、買い物をされるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や知人に年賀状を出したり、絵手紙を作成したり、ご本人の意思に任せやり取りを楽しまれるよう支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1日を過ごす、リビングは季節ごとに飾りを変えたり、畑には季節の野菜や、花を植え、居心地の良い空間づくりを心がけている。	居間には華やかな装飾を避け、利用者が制作した作品が飾ってあります。また、共用空間は清潔で明るく、利用者が落ち着いて過ごせる環境となっています。居間の外には縁側が有り、その前の畑では花や野菜で季節感が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座席を変えたり、行事ではテーブルの配置を変えたり、気の合った利用者同士が楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室のベッド上にご本人のお気に入りのクッションを置いたり、ご自分で作られた作品を飾ったり居心地の良い空間づくりに努めている。	居室にはベッドやクローゼットが備え付けられています。また、利用者が制作した作品を飾ったり、利用者が日頃利用しているお気に入りの身の回り品は持込んだり、落ち着いた環境になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内は安全に配慮して、毎日、来られる利用者に応じてテーブルの配置を替えて、自由行動でき安全に移動できるよう環境創りを心がけている。		

平成26年度

目標達成計画

事業所名 小規模多機能型居宅介護施設 あかね

作成日： 平成 27 年 2 月 20 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	○職員を育てるしくみ。 限られた人数でよりよいケアを行うために職員 スキルの向上が求められる。新人の介護士もい る為職員教育を充実させる。	経験の長い介護士も浅い介護士も、情報を共有 し、技術・知識を磨きご利用者により良いケア を提供する。	管理者・ケアマネが中心となり研修や勉強会を 行う。また、新人職員に対しては計画表を作成 し、個人の能力を見ながら指導する。	12ヶ月
2	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援現 在ターミナルは行っていないが今後、求められ た時には職員が一丸となりターミナルケアに取り 組んでいかなければならない。	ご利用者が最期まで安心して、住み慣れた地域 や馴染みの人たちに見守られて過ごして頂く。	重度化や終末期について日頃からご家族、ご本 人と話し合いをする。また、緊急時の対応や ターミナルについて職員教育を徹底する。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月